

環境影響評価書案

—都市高速道路外郭環状線
(放射7号線～埼玉県境間)建設事業—

昭和60年1月

東京都

I 総 括

I-1 事業者等の氏名及び住所

(1) 環境影響評価の実施者

氏 名

東京都知事 鈴木 俊 一

住 所

東京都千代田区丸の内三丁目5番1号

(2) 事業予定者

氏 名

建設省関東地方建設局 代表者 局長 玉光 弘 明

住 所

東京都千代田区大手町一丁目3番1号

I-2 対象事業の名称

都市高速道路外郭環状線（放射7号線～埼玉県境間）建設事業

（対象事業の種類：道路の新設）

I-3 対象事業の内容の概略

計画の概要は表1-1に、また、事業工程はおおむね表1-2に示すとおりである。

表1-1 計画の概要

項 目	内 容	
	本 線	ラ ン プ
種 別	自動車専用道路	—
設 計 速 度	80 km/h	40 km/h
車 線 数	往復6車線	1車線
道 路 構 造	堀 割	堀割, 盛土, 高架
幅 員	64m (標準)	7m (標準)
本線道路延長	約1.1 km	—
事業計画区間延長	約1.5 km	

表1-2 事業工程表

項目	年					
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
関係法規に 基づく手続	—					
測量及び 調査	—					
道路設計	—					
用地買収	—					
工 事	—					

I-4 環境に及ぼす影響の評価の結論

地域の概況と事業の内容を考慮して選定した予測・評価項目について、現況を調査し対象事業の実施が環境に及ぼす影響について予測・評価した。

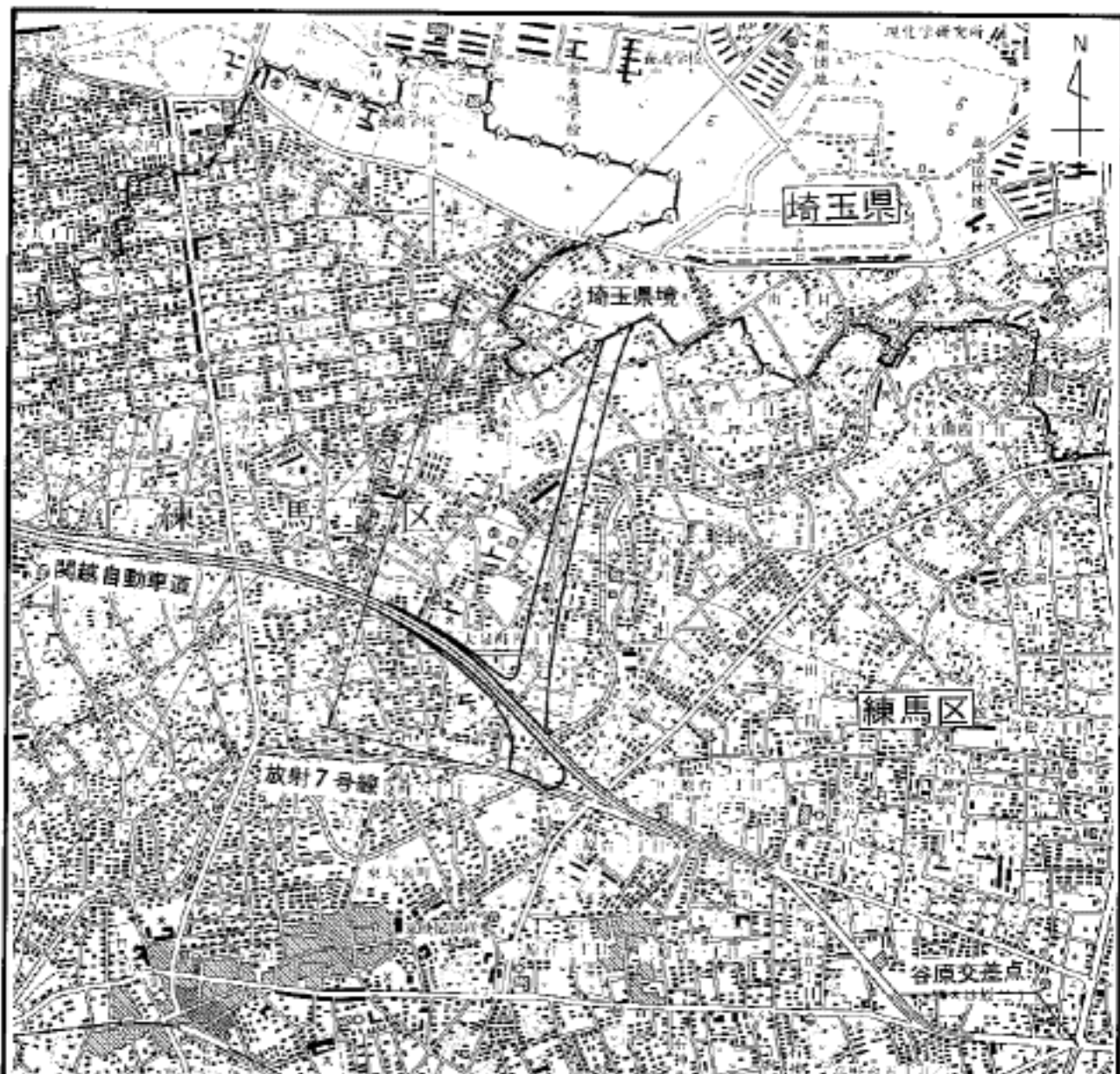
環境に及ぼす影響の評価の結論は表1-3のとおりである。

表1-3 環境に及ぼす影響の評価の結論

予測・評価項目	評 価 の 結 論
1. 大気汚染	<p>工事の施工中の建設機械、工事用車両による排出ガスの影響は、1日当りの稼働台数が少なく、また、工事用車両の本線内工事用道路の利用等により、影響は少ないと考える。</p> <p>工事の完了後の二酸化窒素、一酸化炭素、二酸化硫黄の3物質については、予測の結果、各濃度とも評価の指標以下となり、環境への影響は少ないと考える。</p>
2. 水質汚濁	<p>掘削工事、基礎杭工事等の各工事において各種保全対策を施した上で施工する計画である。また、発生した濁水を公共用水域に放流する場合には、汚濁水処理施設の設置等により、東京都公害防止条例に基づく排水基準を遵守する計画であり、影響は少ないと考える。</p>
3. 騒音	<p>工事の施工中の建設機械による建設作業騒音については、騒音を極力抑える施工法の採用、低騒音型建設機械の積極的導入、また、必要に応じて敷地境界に壁を設ける等の対策を施すことにより、影響は少ないと考える。工事用車両による道路交通騒音は、1日当りの稼働台数が少なく、また、工事用車両の本線内工事用道路の利用等により、影響は少ないと考える。</p>

予測・評価項目	評 価 の 結 論
	<p>工事の完了後の道路交通騒音については、予測の結果、評価の指標以下となり、環境への影響は少ないと考える。</p>
4. 振 動	<p>工事の施工中の建設機械による建設作業振動については、振動を極力抑える施工法の採用、低振動型建設機械の積極的導入等により、影響は少ないと考える。工事用車輛による道路交通振動は、1日当りの稼働台数が少なく、また、工事用車輛の本線内工事用道路の利用等により、影響は少ないと考える。</p> <p>工事の完了後の道路交通振動については、予測の結果、評価の指標以下となり、環境への影響は少ないと考える。</p>
5. 日照阻害	<p>関越自動車道取付部の高架ランプにより計画路線沿道に日陰を生ずるが、「公共施設の設置に起因する日陰により生ずる損害等に係る費用負担について」に基づき対処する。</p>
6. 陸上植物	<p>計画路線沿道は、宅地、畑地としての利用が多いため樹林地はわずかで、生育環境の変化も少ないと考える。また、計画路線は、天然記念物緊急調査による主要動植物地図に示されている植生域、及び、その他学術的に重要と考えられる植生域を通過しないこと、事業計画では、環境施設帯に植樹を施す計画であることなどから、陸上植物への影響は少ないと考える。</p>
7. 地形・地質	<p>工事の施工中の掘削工事に伴う土地の安定性、地下水位の変化、及び工事の完了後における地下水位の変化については、土留工法等の各種対策を検討した上で施工する計画であり、環境への影響は少ないと考える。</p>

予測・評価項目	評 価 の 結 論
8. 史跡・文化財	計画路線にかかる埋蔵文化財については、関係諸機関と充分協議し、発掘調査、記録保存により対処する。
9. 景 観	周辺景観と調和した道路構造のため、景観をそこなうことはないと考える。



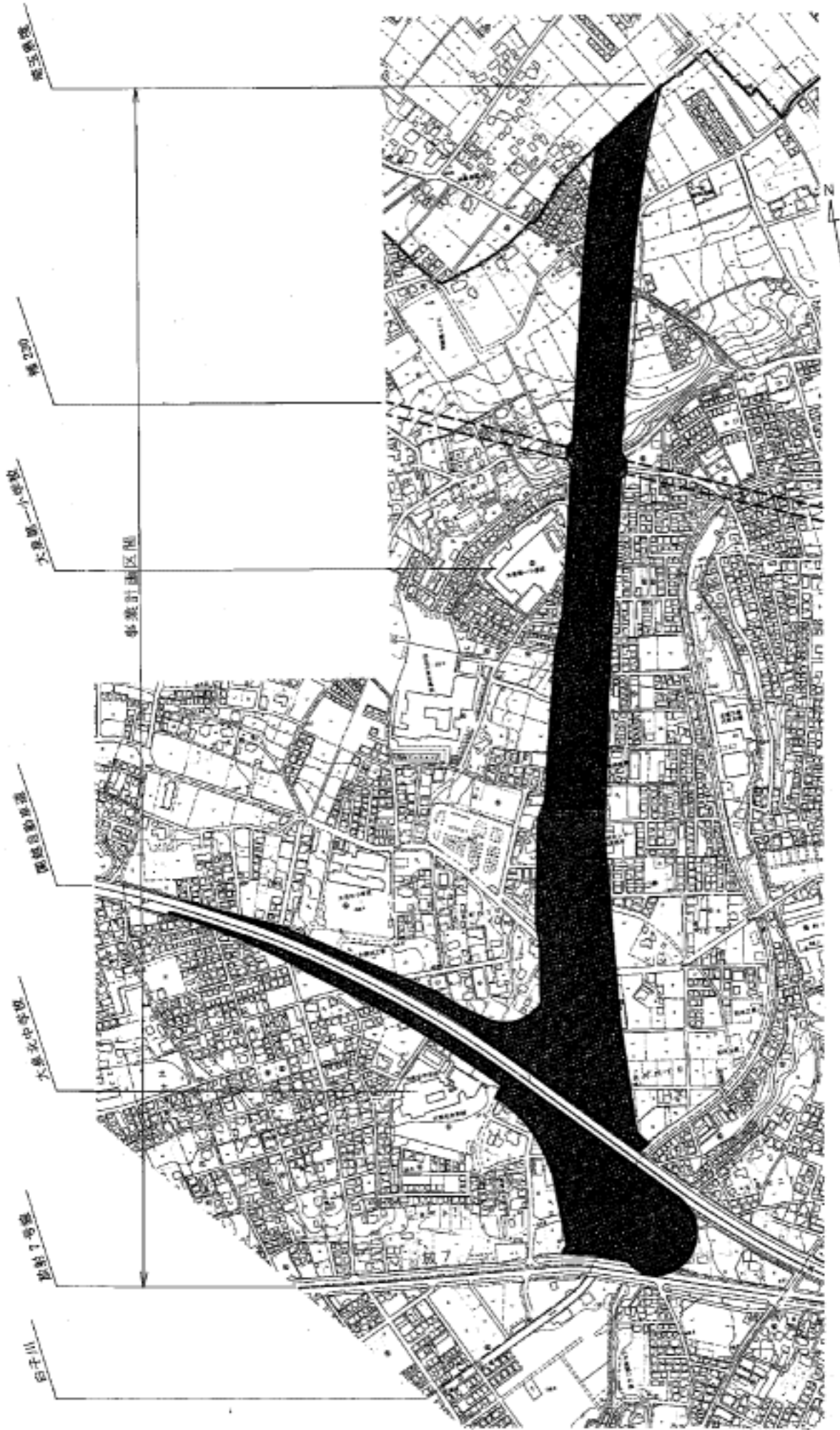
□ 計画路線

図 2 - 1

事業計画区間図

1 : 25,000





事業計画区域

圖2-2 事業計画区域圖 S=1/5,000